

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表 (保育分野)

事業所名	サン・キッズ湘南	
報告書作成日	平成22年1月25日	(評価に要した期間8か月)
評価機関	株式会社 学研R&C	

評価方法

自己評価方法 (実施期間：平成21年6月18日～平成21年11月10日)	横浜市福祉サービス第三者評価調査票を基本に園長、主任を中心に職員間で議論を重ね、作成しました。
評価調査員による評価方法 (実施日：平成21年12月8日、平成21年12月10日)	①第1日目 ガイダンス、施設見学、保育観察、事業者(職員)ヒアリング(園長、主任保育士、保育士、管理栄養士)、書類確認 ②第2日目 事業者(職員)ヒアリング(園長、主任保育士)、保育観察
利用者家族アンケート実施方法 (実施期間：平成21年10月6日～平成21年10月20日)	送付方法・・・園を通して保護者へ手渡し 回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送
利用者本人調査方法 (実施日：平成21年6月18日～平成21年11月10日)	①観察調査は主に第1日目・第2日目午前遊び、昼食、午睡の状況などを調査。 ②0～2歳児については観察調査、3歳児以上については、観察および聞き取り調査を実施。

評価結果についての講評

施設の特徴、施設のよい点・改善すべき点などの総括

*施設の理念を踏まえながら、施設全体としての特徴を総合的に示すとともに、特によいと思われる点、または、より質の高いサービスの提供のために、工夫すべき点・改善点などについての総括

《施設の特徴》

当園の母体企業では、冠婚葬祭やホテルなどの事業を営んでいます。当法人でも高齢者施設や系列の保育園を運営しています。近隣は古くから住む住民と新しく転入してきた住民が入り混じり、自治体活動などはそれほど活発には行われていない状況です。近くには、市の事業として住民参加型の地域生活支援活動やふれあい交流などを行う拠点である、福祉村があります。

《特に優れている点》

○延長保育、夜間保育、休日保育を行い保護者の就労の強い味方になっています

当園は、平日は午前7時から午後10時まで(昼間保育は午前7時から午後6時、夜間保育は午前11時から午後10時)、休日は午前8時から午後6時30分まで、365日開園している保育園です。平日は延長保育を利用することもできます。夜間保育に登録している子どもは、必然的に登園時間が遅くなりますが、そういったことにも対応しています。また、休日保育も行っているため、土・日曜日が出勤の保護者にとっての拠りどころとなっています。365日開所しているため、家庭以外での生活の場を統一することができ、子どもと保護者の大きな安心につながります。保護者アンケートの自由意見にも、「長い時間あずけていても安心できると思っています」「一緒に子育てをしてもらい、園長先生をはじめ先生方には、家族の一員のように接することができます」「園での生活や先生方の対応に関しては非常に満足しています」など、園に信頼を寄せる声が見られます。園全体が一丸となって、子どもが安心して過ごせる環境の提供に努め、保護者の就労支援として強い味方になっていることがうかがえます。

○廃材を使って工夫した造形活動に取り組んでいます

当園では造形活動を計画的に取り入れ、作品展で保護者に発表する機会につなげています。そのなかでも、廃材を利用したユニークな作品がたくさんあります。例えば、家の取り壊しで不要になった障子を寄付してもらい、5歳児がそこに文章を書いて飾ったり、ペットボトルのキャップを利用して、魚をかたどり水族館を作ったり、新品のワイシャツの間に挟まっている透明の板と画用紙を使って、動かすと絵が変わる不思議なアートに変身させたりしていました。子どもたちが一つ一つ作った時の様子を説明してくれて、楽しく作った様子もうかがえました。

○限られた施設環境を有効に利用しています

当園は土の園庭がない代わりにテラスと屋上が園庭になっています。屋上やテラスにはブランコや太鼓橋などの固定遊具のほか、1階から3階までの高さを利用した滑り台があります。もちろん落下防止のための安全対策も万全にされています。1階には砂場も設置され、子どもたちが開放的に遊べる環境を設定しています。同法人運営で隣接する高齢者施設の利用者が、すぐ近くで子どもの遊ぶ様子を毎日見ることができ、子どもたちも近所のおじいちゃん、おばあちゃんに接するように気軽に声をかけています。廊下には大きな吹き抜けがあり、陽光をたくさん取り入れる工夫がされて園内が明るく感じられます。

《今後の取り組みに期待したい点》

○個人情報の取り扱いやプライバシー保護について、さらなる周知、徹底を期待します

「個人情報保護に関する基本方針」が作成されており、職員会議で周知しています。園内各所に掲示もされていますが、保護者への案内がこの掲示のみにとどまっています。今後は進級の説明会などで説明することや、個人情報使用の同意書の取得などを検討されることを期待します。また、守秘義務については入職時に園長より職員に説明しています。ボランティアや実習生に対しても、オリエンテーションで説明しています。今後は、誓約書の導入を検討されることを期待します。

○各種マニュアルを活用し、さらなる業務の標準化に期待します

当園には各種マニュアルが整備され、子育て支援室（職員室）に保管されています。今後は使用頻度の高いものや重要部分、特に現場で必要とされる部分などを抜き出し、個々の職員に配付したり、各保育室に常備したりして、さらにマニュアルを活用しやすくされることを期待します。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<p>保育理念、保育方針、保育目標が1階ホールをはじめ、園内各階に掲示されています。保育目標の「丈夫でたくましい子ども」「仲良く遊べる子ども」「思いやりのある子ども」を保育の基本と考え、園長はことあるごとに、わかりやすい言葉を使って職員に伝えています。</p> <p>職員は保育目標に沿った保育を実践するために、散歩や戸外遊びを通して体力増進を図ったり、異年齢保育を取り入れて仲間意識が育つように配慮したり、自分で遊びを選べるようコーナーを作ったりしています。</p> <p>保育課程の作成にあたっては、今まで使用していた保育計画をもとに園長が原案を作り、乳児ミーティング、幼児ミーティングそれぞれで話し合いをして、園の実情により合ったものになるようにしました。当園は学童保育を併設しているため、地域の実情として、学童を含めた小学校との連携についてもうたわれています。</p> <p>また、保護者の実態に即すというところでは、22時までの延長保育を行っているため、保護者との日頃からのコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築していくことを掲げています。</p> <p>入園のしおりの中には「基準保育計画表」として、保育課程を保護者が見やすくコンパクトにしたものを掲載し、進級式の日に保護者に説明しています。</p> <p>年齢ごとに保育課程に基づいた年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。</p> <p>保育士は常に、子どもたちの表情を観察し、言葉に耳を傾け、子どもの気持ちを大切にされた保育を実践しています。例えば、作品展に向けて、子どもたち一人ひとりの作品作りを計画して準備をしていましたが、子どもたちから「みんなで一つのものを作りたい」という声があったため、子どもの意見を尊重して共同製作へ計画を変更しました。</p> <p>活動を変更した場合には、日案に赤で二重線を引き、変更した内容を同様に赤字で書き込んでいます。</p>

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



2～3月に順次入園前の個別面接を保護者としています。面接の際は、できるだけ子どもを同伴してもらっています。面接は、園長面接と担任の面接と2度行い、話した内容は「面接による生活習慣記録」に記入しています。保護者からは児童票や健康記録を記入してもらい、入園時に提出してもらいます。

面接で得た情報は、乳児ミーティング、幼児ミーティングで職員に伝え、保育に活かされています。

短縮保育（ならし保育）については、入園前の園長面接で、保護者の就労状況に合わせて個々に決めていきます。1週間のケースをモデルとして入園のしおりに掲載していますが、就労の都合上難しいという保護者が年々増えていると、園長は実感しています。特に0歳児は、あまりにも長く泣き止まない場合や、ミルクを飲まない場合など、職場に電話をして相談をすることもあると説明しています。

0、1歳児は主担当保育士が決まっています。子どもが心理的拗りどころとするタオルやおしゃぶりなどの持ち込みを認めています。

連絡帳は、0歳児については毎日記入しています。1歳の誕生日を迎えると連絡帳が野線だけのものにかわり、週1回の記入になりますが、希望者には0歳児と同様のものに毎日記入しています。

在園児への配慮としては、2月ごろから進級後の保育室で遊んだり、食事をしたりして、少しずつ環境に慣れるように配慮しています。

指導計画は、毎月開催される乳児ミーティングや幼児ミーティングで作成、見直しをしています。

就学に向けて、子どもが自分の名前を書けるように園でも取り組んでほしいとの保護者の意向があります。それを受けて、しりとりやカルタなどで文字遊びに無理なく取り組み、自然に子どもが興味を持てるように計画に反映させています。

I-3 快適な施設環境の確保



園舎は常に整理整頓されています。清掃員を雇用したり、業務用のスチーム掃除機を使用して清潔に心がけています。沐浴室と調乳室には、職員用の清掃確認表があり、清潔保持に努めています。保育室は冷暖房、床暖房、加湿器、空気清浄機完備で、換気扇による自動換気も行われ、快適な環境が保たれています。温湿度計も各保育室に設置されています。

建物の立地関係上、日陰になる時間が長いのですが、天井を一部ガラス窓にしたり、吹き抜け部分をつくるなど採光をよくする工夫がされています。

CDデッキが保育室に設置されており、食事中に静かな音楽をかけていました。保育士の声は適切で、大きな声を出したりすることはありません。

また、沐浴室や温水シャワーの設備があります。毎日の掃除のほかに、使用後は熱めのお湯で清掃して、雑菌の繁殖を防いでいます。感染症が流行しているときなどは、消毒液を使用して清掃を行い、感染の拡大を防いでいます。

各保育室はとても広く、あそびのコーナーが常設されているところもあります。おもちゃは子どもが自由に取り出せるようになっており、自主的に遊びを選択できる環境作りをしています。

食べる・寝るのスペースは、ゴザや井草マットなどで分けています。

異年齢交流としては、1階フリースペースでの自然なかかわりのほか、散歩と一緒に出かけたりしています。また、3～5歳児は、年2回、1週間の期間を設けて異年齢保育を行っています。4つの異年齢グループを作り、食事や散歩、遊びなどを異年齢と一緒に楽しみます。

0歳児は、特に月齢による差が大きいため、遊びや散歩を月齢で分けたり、絵本を別々に読んだりすることもあります。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



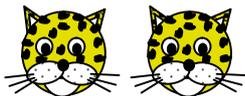
0、1歳児には、個別指導計画を作成し、毎月見直しをしています。現在まで、特別な配慮を要する子どもについても、2歳児以上では個別指導計画を作成していません。今後は取り組まれることを望みます。子どもの状況が変化した場合、乳児ミーティング、幼児ミーティングなどで見直し、計画に反映させています。計画の内容は、重要部分を保護者に伝えていきます。0、1歳児は離乳食、排泄など、4、5歳児は友だちとの関係や就学に向けた内容を伝えることが多くなっています。子どもの家庭の状況などは、児童票に詳細に記入されています。入園後の子どもの状況は、個別経過記録に記入しています。0、1歳児は毎月、2歳児は2か月ごと、3～5歳児は3か月ごとに記録しています。こうした子どもに関する記録は、職員が必要な時にいつでも閲覧できるようになっています。進級時の申し送りは、新旧担任が時間を設けて、口頭で行っています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



特に配慮を要する子どもについては、乳・幼児ミーティングや職員会議などで話し合い、会議録に記録しています。障害に関する外部研修に毎年積極的に参加し、最新の情報を得ています。今年度は統合保育研修で「障害の種別と特性」というテーマで受講しています。研修後は研修報告書を提出し、回覧して情報を共有しています。回覧後の研修報告書は、事務室にファイリングして保管しています。園舎は3階建てで、屋上が園庭になっています。玄関を入るとすぐにエレベーターが設置されており、階段には高さの違う手すりが2本取り付けられています。また、多目的トイレも設置しています。関係機関と子どもの情報をやり取りするときは、必ず事前に保護者の同意を得ています。子どもたちには「小さい先生」になってもらい、障害の有無にかかわらず、「困っているお友だちを助けてあげてね」と伝えていきます。子どもたちの間に自然に仲間意識が芽生えるように支援しています。食物アレルギーのある子どもへの食事は、主治医の指示書に基づき提供しています。保護者に確認をもらったうえで、個別の献立を作成しています。代替食を提供する場合は、見た目にも配慮し、マヨネーズの代わりにマヨネーズ風ドレッシングを、卵焼きの代わりに豆腐で形を似せて整えるなどしています。また、アレルギー疾患についての知識などを徹底するために、主任が以前外部研修で得た資料をもとに、園内研修を行っています。宗教や生活習慣の違いについては、保護者の考え方を尊重し、配慮しています。子どもには特別な説明をするのではなく、自然に受け入れられるように支援しています。意思疎通が難しい外国籍の保護者に対しては、電話などでの説明は極力避けて、送迎時などに十分な時間を作り、ゆっくりと口頭で説明するようにしています。

I-6 苦情解決体制



要望や苦情の受付は主任が担当しています。「ご意見・ご要望解決の仕組みについて」が園内各所に掲示され、第三者委員も掲載されています。第三者委員の住所と電話番号が載っていて、直接連絡ができるようになっています。このほか、ご意見箱が玄関に設置されています。懇談会は平日の5時以降に行っていますが、3分の2の保護者の出席があります。これらを通して、保護者の苦情や要望の吸い上げに努めています。

今後は、権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口についても保護者にお知らせすることを期待します。

「苦情解決体制および運営要綱」が整備され、寄せられた要望や苦情にはそれをもとに対応しています。必要が生じた場合には、第三者委員を交えて話し合いができる体制にしています。

園単独での対応が難しい場合には、行政や他機関との連携の体制も整備しています。

苦情の内容は、記録用紙に記入され、どのような対応をしたかということも合わせて、職員に伝えています。昼礼や職員会議などで話し合い、解決に活かしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ-1 保育内容[遊び]</p> 	<p>園舎は3階建てになっていて土の園庭の代わりに、屋上やテラスのスペースを大いに活用した園庭があります。屋上やテラスにはブランコや太鼓橋などの固定遊具のほか、1階から3階までの高さを利用した滑り台があります。もちろん安全対策もされています。1階には砂場も設置され、子どもたちが開放的に遊べる環境を設定しています。</p> <p>保育室内には、大型ブロックや可動式サークルを利用してコーナーを設け、子どもたちが落ち着いて遊べる空間を確保しています。そして、年齢にあわせたおもちゃや教材を種類別に配置し、子どもたちがそれぞれ好きなおもちゃを自由に取り出して遊ぶことができるようになっています。訪問調査当日も、「粘土遊びをしたい」と言う子どもの声を聞いて保育士が粘土板と粘土を準備している姿が見られました。職員は季節感や子どもたちの運動能力に配慮しながら環境構成を工夫したり、おもちゃや教材を選んだりしています。また、遊びが一斉遊びに偏ることがないように、一斉遊びと自由遊びを交互に取り入れるなどの工夫をしています。</p> <p>近隣は自然に恵まれており、戸外遊びを積極的に取り入れ、自然に触れています。5歳児クラスでは散歩でカニやザリガニを捕まえ飼育しています。また、カメも飼育しており、落ち葉をかけて冬眠の準備をしています。このほか、幼児クラスでは、自然物（葉、木々）や廃材（障子、ペットボトルなど）を活用した創作活動が活発です。</p> <p>健康増進の一環としてはだし保育を実施しており、足の裏での感覚が養えるよう推進しています。紫外線対策として、子どもたちは帽子をかぶり、屋上やベランダには、ビニールシートやパラソルで日影をつくり紫外線を防止しています。</p> <p>子ども同士のけんかについては、そのつど相手の気持ちを理解できるような働きかけをして、解決を急がずに理由や原因について、話を聞くことに時間をかけています。</p> <p>4、5歳児が、2、3歳児の午睡後の布団片付けや着替えの手伝いをするなど、日常生活の中での異年齢交流にも力を入れています。また、夜間保育をしていることもあり、異年齢で過ごす機会が毎日あります。職員ともクラスを超えた関係作りができています。このほか、同じ法人の施設（学童クラブ、高齢者施設）へも頻繁に行き来して世代間交流を行っています。</p>

Ⅱ-1 保育内容[生活]



昼食、夕食ともに完全給食を提供しています。献立は旬の食材を取り入れ、季節感に配慮したものになっています。以前は外注でしたが、今年の5月より園内で調理して提供しています。年齢に合わせて当番を決めており、配膳の際には子どもたちがお盆のセットやご飯の盛り付けなどを行っています。保育士は、「今日はなにかな?」「色の濃い野菜はなあに?」など、子どもたちに声をかけ、興味、関心を引き出しています。野菜の苦手な子どもが多いため、量を減らしたりしてひと口は食べられるよう配慮しています。「すごいね。ぴかぴかだ」など食べきる意欲が出るような声かけも心がけています。

0歳児については、授乳の仕方や抱き方など家庭での様子を聞きながら、緩やかな担当制を導入しています。離乳食についても、家庭の様子を聞きながら進めています。訪問調査当日も、子どもたちが席に座って自分のペースで食事をしている様子が見られました。保育士は、上手に口に運べない子どもについては見守り、タイミングをとらえて「もうちょっとだね。上手、上手」などやさしく声をかけて援助しています。

現在、保育士と管理栄養士が連携して食育に取り組み始めています。管理栄養士は、喫食中に各クラスを巡回し、子どもたちの様子を見て、メニューの要望を聞いています。また、残食の様子を見て、調理方法や味付けの工夫をしています。子どもたちが食材に触れる機会として、ジャガイモやキュウリ、タマネギ、ソラマメなどの皮むきをしたり、園外保育で稲刈りを体験したりしています。保護者に対しては、献立表のほか、献立のポイントや食べ物の働き、栄養についての情報を載せた給食だよりを配付して、食事についての情報提供を行っています。また、外部の講師を招いて、生活習慣病予防対策講話を開催したり、給食の試食会を実施したりもしています。

午睡や休息は、個々の状態に応じて対応しています。午睡のスペースは敷物を敷いて区分けしています。眠りを誘うBGMをかけたり、カーテンを閉めるなどして環境作りに配慮しています。4、5歳児は夏季を除いて午睡時間を設けていませんが、長時間保育などを考慮して、夕方休息できるスペースを設けています。夜間保育は21時から仮眠の時間を設けています。

排泄は、一人ひとりの状況に応じて対応し、トイレトレーニングは保護者と状況の共有を図りながら進めています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



健康に関するマニュアルや感染症に関するマニュアルが整備されています。保護者への説明、プリントの配付も入園時に行っています。感染症の発症時には混乱を招かないよう迅速な対応をしています。
インフルエンザなどの最新情報についての提供もあり、欠席状況についても各クラスのホワイトボードに掲示しています。
嘔吐物処理キット（バケツ、新聞紙、使い捨てエプロン、手袋、マスク）は、各クラスに設置してあります。
登園時の健康状態や降園時の保護者への伝達は連絡ノートにて行っています。複雑なシフトで漏れないよう主任やフリー保育士が二重の確認をしています。
健康診断・歯科健診は定期的実施し、結果については連絡帳に記入して保護者への伝達をしています。
通院が必要になる場合は、保護者に電話連絡し、結果を直接口頭で伝えています。通院後の経過についても家庭との情報交換を密にしています。
嘱託医との連携もとれており、連絡先も職員室の目につくところに掲示してあります。隣接する高齢者施設の看護師との連携もあります。
個人の健康状態について、園では児童票に情報を集約し、クラス担任をはじめ状況の共有化を図っています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[衛生管理]



衛生管理マニュアルは、給食用と保育室用があり、定期的に見直しています。
今年は新型インフルエンザ流行のため、県からの最新情報もあり、全職員が情報を共有化し、保育にあたっています。
トイレや保育室の清掃については、回数が決まっています。0歳児室はスチーム洗浄を実施しています。午前中に清掃員が実施し、その後は各クラスにて保育士が定期的に行っています。
手洗いについては紙芝居を通してその大切さを指導し、手洗いチェッカーも使用しています。手洗い後、アルコール消毒も実施しています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理[安全管理]



安全対策として、地震防災計画や連絡体制・防災組織図を完備しています。避難訓練は、月に1回実施しています。その中に遊具の安全確認や通報訓練・不審者侵入時の体制訓練が組み込まれています。実施の記録もあります。AEDの設置があり、年に1回職員が研修を受講しています。非常食の備蓄もあり、リストによって賞味期限について確認しています。
保護者への連絡は緊急連絡簿が整備されています。
事故やけがについてのマニュアルもあり、救急機関の一覧表を掲示しています。かかりつけ医については、児童票に記載されています。医療機関の受診が必要な事故やけがについては、園長が症状を確認し受診します。状況についての保護者への連絡は、クラス担任を中心に行っています。その後の経過についても連絡を取り合っています。また、再発防止としては、ヒヤリハットを作成し、職員会議で話し合いの機会を設けています。
不審者侵入防止については、出入り口を平日は時間帯を決めて、休日は終日施錠しています。施錠後はインターホンにて対応しています。セキュリティの設置もあり、定期点検を業者が実施しています。
また、地区にある交番の警察官が定期的に見回りをして、巡回後ポストに見回りカードを配付しています。地域情報も市や近隣の学校から迅速に入ってきます。

II-3 人権の尊重



職員会議を通して、子どもへの声かけ、接し方などは常に検討、改善しています。今年度は特に、県から職員向けに「人権チェックリスト」が配付され、当園でも日常の保育の振り返りに役立てました。子どもの呼び方は「ちゃん」「くん」を付け、呼び捨てにしないことなどは、以前から職員間で確認し徹底しています。

各保育室は、とても広く友だちの目を気にせずに過ごせる場所もあります。また、職員の休憩室、子育て支援室（職員室）や遊戯室などを利用して、必要に応じて1対1で子どもと話をできるようにしています。子どものプライバシーを守れる空間が用意されています。

守秘義務については、入職の時に園長より説明しています。ボランティアや実習生に対しても、オリエンテーションで説明しています。

「個人情報保護に関する基本方針」が作成されており、職員会議で周知しています。園内各所に掲示もされています。

虐待について外部研修に参加し、理解を深めています。今年度は「虐待を受けた子どもと家族への心理的ケア」というテーマで外部研修を受講して、研修報告書を回覧し、情報の共有をしました。

虐待が疑われる場合、園長、主任に報告し、園長は、家庭児童相談室や児童相談所に連絡をします。その後、必要に応じて、関係者会議などへ出席する体制を整えています。

遊びや持ち物、服装など性別での区別はしていません。5歳児が飼育しているカメの名前は、オスがみかちゃん、メスが亀吉といますが、担任保育士は、子どもがせっかく付けた名前だからと特に変更していません。名簿は男女で分けず、生年月日順になっています。

ご飯を作るのはお母さんの仕事など固定的な伝え方はしていません。さらに、父の日、母の日などの行事やプレゼントもしていません。

性差による先入観については、職員会議などで園長が時々話題にし、意識の確認をしています。

II-4 保護者との交流・連携



保育の基本方針や年間の行事予定については、入園時のしおりやパンフレットに明記し、入園の案内時や進級時・クラス別懇談会等で説明する機会を設けています。

保護者との情報交換について、登園時の様子は、早番の職員が確認し、出欠、投薬、昼夕の食事数などが記入できる特定のメモを使用しています。それを各クラスに配付し、日中の職員から遅番の職員へと引き継ぎを行っています。

連絡帳は0歳児は毎日、1歳児は週1回、2歳児以上は身体測定の記録とともに月1回、主に発達状況を中心に園での様子を伝えています。このほか、3～5歳児では毎日各クラスのホワイトボードを活用して、その日の様子や情報を伝えています。写真や絵も入れて見やすく、わかりやすい工夫をしています。

個別面談は秋の作品展に合わせて設定していますが、保護者の希望があれば随時受け付けています。クラス別懇談会も実施しています。出席できなかった保護者には、即日情報としてホワイトボードにて、後日クラスだよりにてお知らせしています。

年間行事については、入園時や進級時にプリントを配付しています。大きな行事は主に土曜日に計画しています。事前にお知らせしているので出席率は高くなっています。また、3か月間の期間を設け、1クラス1名の保護者が「一日保育士」と称し、1日子どもたちと過ごす機会を設けており、とても好評です。

相談については、個別にいつでも受けています。また、こちらから送迎時に声をかけることもあります。場所は、子育て支援室（職員室）を設けていますが、保護者の要望があれば、子どもの様子を見ながら行うこともあります。

保護者会との連携や行事の共催はスムーズにできています。もちつきやお茶会・卒園式が共催行事です。運動会、クリスマス会や進級のお祝いプレゼントの協力も得ています。また年1回の人形劇の芸術鑑賞会は保護者会の主催です。

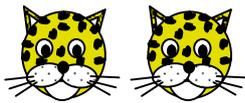
評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<p>当園では地域子育て支援事業として、園開放や一時保育を実施しています。週1回行われる園開放の日には、地域住民からの育児相談も受け付けています。実際に地域家庭を対象としたサービスを提供し、さまざまな相談内容に対応することで地域と触れあい、子育て支援ニーズを把握しています。</p> <p>市内保育園園長会に法人の幹部職員が出席し、園長も定期的に他園園長との交流をもち、地域情報の収集や検討を行っています。</p> <p>園開放や一時保育といった地域子育て支援事業の運営は園長および主任が担当し、支援ニーズを含め必要に応じて随時話し合いが行われています。</p> <p>週1回、親子参加の形で実施している園開放には10～15名の参加があり、子どもばかりでなく保護者交流の場としても好評です。園が掲示している給食の献立表や実物見本を見た参加者の要望で、月1回の給食試食会（要予約、有料）の実施も開始されました。園開放や一時保育で来園した保護者には、運動会などの園行事の案内も積極的に行い、参加を歓迎しています。</p> <p>平成19年には法人主催で地域住民や公立保育園職員、保護者対象の「命」をテーマとした講演会を行い、約100名の来場がありました。</p>
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<p>地域住民を対象とした育児相談は、週1回の園開放の日を実施しており、電話による相談も随時受け付けています。育児相談の実施については園独自のパンフレットを配布したり、市のホームページなどでも広報されています。</p> <p>子育てや保育に関する情報は、園開放や一時保育、見学などで園を訪れた地域住民に、育児相談や園の掲示物などを通じて提供されています。</p> <p>医療機関、市役所などの連絡先電話リストを子育て支援室（職員室）に掲示し、全職員が情報を共有しています。</p> <p>地域療育センターや児童相談所、ことばの教室などの関係機関とは相談内容に応じて日常的な連携ができています。また、園と関係機関、保護者が継続的に連携する体制も取られています。</p> <p>関係機関との連携は園長が窓口となり、ケースに応じて機関から担当者が来園し対応が取られています。</p>

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>園行事を開催する際には、自治会会長を通じて地域住民を招待したり、近隣住民には前もって招待券を持参するとともに挨拶をし、友好的な関係が維持できるように心がけています。また、園開放などで園を訪れた地域の保護者にも声をかけ園行事への参加を歓迎しています。</p> <p>園を運営する法人では利用者を含めた地域住民に向けて、はし作り教室や料理教室などの親子参加型のイベントを企画開催しています。講座内容は好評で、地域住民の交流の場ともなっています。</p> <p>園には学童保育室が併設されているため、小学校との連絡はよく行われています。幼保小連携事業として幼稚園や小学校の教員との交流会に参加するほか、保育士が小学１年生の授業参観に招待され、卒園児の様子を見学してくるという取り組みも行われています。中学校、高校から職業体験の場として園に依頼があった場合には快く協力をしています。</p> <p>地域への施設開放や備品の貸し出しはこれまで要請がなく実績はありませんが、備品や本、紙芝居などの貸し出しをする用意があります。</p> <p>運動会は毎年市営の運動場を借りて行っています。</p> <p>散歩では、すれちがう地域の方とあいさつを交わし笑顔の交流ができています。地区の「町内福祉村」（市が推進する住民参加型の地域生活支援活動およびふれあい交流活動の拠点）を訪問して、地域高齢者の方と交流する機会ももっています。毎年近隣の農家において稲刈りの体験を行うほか、子どもたちがサツマイモの苗を植え、収穫の際には同法人高齢者施設の入居者と一緒に芋掘りをし、高齢者の方との交流も楽しんでいます。ほかの公立保育園や姉妹園への訪問や交流保育は毎年の恒例行事となっており、継続的な交流が行われています。</p> <p>市の公民館で開催される福祉まつりや市内保育園絵画展には、毎年子どもたちの作品を出品しています。障害者や高齢者、他園園児の作品を見ることも大切な経験と考え、見学にも出かけています。また、地域のプロサッカーチームが主催する保育園交流サッカー大会にも参加し、園内で月１回開かれているサッカー教室での成果を発揮するとともに、他園との交流を深める機会ともなっています。</p>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<p>園のパンフレットに加え「基本方針」「園則」が配付物として用意され、必要に応じて利用希望者に提供されています。園独自のホームページも開設され詳細な情報が常時発信されています。パンフレットやホームページにおいては、保育目標、保育時間、サービス内容、料金、年間行事などが掲載され、将来の利用者にもわかりやすく情報が提供されています。また、ローカル情報誌などにも園の紹介記事を掲載し、広報活動も活発です。</p> <p>利用希望者からの電話による問い合わせには事務職員が対応し、園の基本方針や利用条件、サービス内容などについて説明しています。利用希望者には、見学ができることを伝え、日時は見学希望者の都合に合わせて設定しています。来園時には、パンフレットなどを適宜配付して詳しい情報を提供しつつ、利用にあたっての相談に応じています。</p>

Ⅳ-3 実習・ボランティアの受け入れ



定期的に読み語りボランティアの方が来園し、本の読み語りや紙芝居、手遊びなどを一緒に楽しんでいます。またパソコンボランティアの方にパソコンを使ったゲームや塗り絵のやり方を教わり、ふだんできない体験も楽しんでいます。

市の社会福祉協議会発行の「ボランティアガイド」には当園のボランティア受け入れ情報も掲載され、社協の研修受講者からボランティア希望が寄せられることもあります。

ボランティアの受け入れは園長および主任が担当しています。中学生や高校生の職業体験も快く迎え入れ、受け入れ時には「実習生としての心得」を用いて、心得や注意事項を説明しています。

市の依頼で受け入れている高校生の職業体験の意見や感想は、市によって集計され園にも送付されています。ボランティアから寄せられる意見や感想を取り入れ、挨拶をしっかり行うなど、子どもたちにも好影響が見られます。

現在、ボランティアを積極的に受け入れています。ボランティア専用マニュアルが作成されていません。今後も受け入れが安全に継続されるためにも、守秘義務などの注意事項を明記した園独自のボランティア受け入れマニュアルが整備されることを期待します。

実習生の受け入れにあたっては、職員ばかりでなく、あらかじめ保護者にもホワイトボードなどで知らせるようにしています。

受け入れは園長および主任が担当し、実習内容によってはクラス担任が指導を担当することもあります。実習生にはマニュアル「実習生としての心得」を配付し、実習上の注意点を説明しています。

養成校や本人の希望をききながら目的に応じた実習が行えるようにプログラムを工夫しています。

実習生からは休憩時間や実習最終日に感想や意見を聞いたり、実習記録の内容に基づいて、意見交換を行っています。

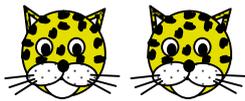
評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<p>園長および法人幹部により、園運営に十分な人材構成であるかについて検討が行われ、必要な人材の補充が行われています。人材の採用は法人本部の規定に従って行われ、法人説明会を経て最終の三次面接において理事長、園長を含めた幹部面接が行われ職員採用が決定されます。人材育成計画についても法人本部が行っています。</p> <p>法人の考課表をもとに、園長が保育園運営に適合する考課表評価基準を再編し、個々の職員の達成度評価が毎年行われています。</p> <p>年間研修計画は外部研修会の開催情報をもとに園長が作成しています。担当する職務への必要性および参加回数の職員間バランスを考慮しながら、常勤職員の中から参加者が決定されます。</p> <p>保育センターなどで開かれる外部研修会には毎年積極的に参加し、参加職員は研修報告書を作成しています。研修内容によっては内部研修として職員会議の中で研修報告を行ったり、研修報告書を職員間で回覧するなどして、すぐに取り入れられるものは採用し、研修成果の共有を図っています。また、法人施設内研修として関連施設でのマナー研修や同法人運営の高齢者施設において、保育士が介護実習を受けるなどの取り組みも行われています。</p> <p>研修成果の評価は現在特に行われてはいませんが、初級から上級、管理者へと系統的な法人内研修の必要性が認識されており、課題として掲げられています。</p> <p>職員の配置については常勤職員と非常勤職員それぞれの適性や業務経験を考慮して組み合わせを行い、担当クラスの特性に合った配置を行っています。非常勤職員の業務経験を尊重した職場環境作りを心がけています。</p> <p>非常勤職員の指導は主任が行っています。口頭のほか職員間の連絡ノートに次の日の保育につなげるアドバイスや注意点を記入して回覧し、コミュニケーションを図っています。必要に応じて開かれるパートナーミーティングには園長および主任も出席し、非常勤職員との話し合いや意見を聞く機会としています。</p> <p>非常勤職員には担当時間帯のデイリープログラムが配付され、いつ何をすべきかを的確に理解し、自ら行動できるようになっています。</p>
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<p>一層のサービス向上を目指す工夫としては、経験豊富な職員が新人職員に対して事例を用いて取るべき対応を考えさせ、それによって想定される結果や理由を解説し、適切な業務の道筋を理解させていく取り組みなどが行われています。</p> <p>日々の保育内容の振り返りは業務日誌の中で行われ、月1回開かれる職員会議や乳児会議、幼児会議の中ではサービスの見直しが行われてはいますが、現在、個々の職員の保育技術についての振り返りが行われていません。</p> <p>保育士個々の資質向上のためには、経験や能力に応じた自己課題を設定したうえで、定期的に個々の業務を自己評価する継続的取り組みが求められます。必要に応じて、外部から保育技術の評価、指導を受けるしくみ作りも並行して取り組むことを期待します。</p>
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<p>「考課表評価基準」が主任や一般保育士などの職責別に用意され、人事考課に使用されています。園内業務を4項目に分類し、それぞれの項目ごとに職責に応じて期待される達成度を6段階評価で明示しています。</p> <p>「職員役割分担表」においては園長や主任、保育職員、事務職員、調理職員といった職務別に役割分担が列記され、職員にはそれぞれが果たすべき役割について明確に提示されています。園内の情報はすべて園長に報告されることになっていますが、内容によって対応は現場に任せられます。</p> <p>年度末には職員に個別アンケートを行い、一年の反省や翌年度の勤務の希望、園運営への意見や要望を提出してもらい、職員の満足度や要望の把握に努めています。</p>

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<p>「就業規則」では職員としての服務規律が定められ、規律に違反した場合の懲戒の基準も明示されています。職員に配付される「保育士の手引き」では、保育の心得の中で守秘義務などの職業倫理についても言及され、周知が図られています。</p> <p>法人本部のホームページでは、法人全体の決算報告書を閲覧することができ、経営状況が一般に公開されています。</p> <p>新聞記事などで注意喚起が必要と思われる事案については、朝礼や職員会議などで啓発を行うこともあります。</p> <p>保護者や関係者の協力を得て集められたコルクやパンの袋留め、ペットボトルのふた、広告紙、着物の畳紙、古障子などの廃材を再利用して子どもたちが製作をし、園内でエコをテーマとした作品展が開かれました。また、子どもたちとの話し合いの中から「エコレンジャー」活動が創設されました。責任感をもって楽しくゴミの分別を行うエコレンジャーたちの活躍でエコに対する意識が園内で高まり家庭でも効果を上げています。電気はこまめにスイッチを切り、水は鉛筆の細さで使うように呼びかけ、省エネルギーに努めています。</p> <p>「エコ対策計画」には節電や節水の心がけやゴミの分別、資源ゴミの有効活用が明記されています。ゴミ分別箱の近くには子ども向けの啓発ポスターの掲示も行い、取り組みは明文化され運営に活かされています。</p>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<p>保育理念および方針、目標は子育て支援室（職員室）に掲示され、職員がいつでも参照できるようになっています。</p> <p>月1回開かれる職員会議や乳児会議、幼児会議には園長および主任も出席し、園の保育方針や目標に沿った保育が実行できているかの振り返りが行われています。また、平日午後に約10分間行われるミーティングをあえて「サン・アド」と名付け、業務連絡ばかりではなく、太陽（サン）のように明るく、ユーモアや笑いのある話し合いが行われる時間として大切に、業務へのアドバイスを言い、園方針の理解を促しています。</p> <p>父母会役員会が行うアンケートを通じて、保護者から行事についてのアイデアや要望を吸い上げ、費用負担が発生するものについては特に慎重に意見を聞くようにしています。また、施設内の設備などに変更を加える場合にも保護者に説明を行い理解を求めています。</p> <p>インフルエンザやノロウィルスなどの感染症が発生した場合には、園長および主任をはじめ、保育士、管理栄養士、同法人内の看護師が協力して対応にあたる体制となっています。</p> <p>主任は毎年外部の主任保育士研修を受講し育成されています。</p> <p>朝の登園時間帯には主任が玄関入り口でお迎えに立ち、保護者対応をしながら子どもの状況を把握したうえで、園全体の業務が円滑に遂行されるように機能しています。職員間での連絡ノートや業務日誌によっても職員の業務状況が把握されるしくみとなっています。</p> <p>個々の職員への指導やアドバイスは、会議での業務の振り返りの中で、良かった点、改善が必要な点などを指摘しています。褒めることによる育成も大切であると考え実行しています。</p> <p>職員が業務上で困難なケースを抱えているような場合には、話を聞き対応策をともに考え、必要に応じて園長交えて相談をするようにしています。職員の勤務シフトを決める際には、休日について本人の希望を聞き、勤務時間帯が同じグループの職員間で調整をしてもらいながら、バランスが取れるように配慮しています。</p>

VI-3 効率的な運営



事業運営に影響のある情報は主に園長が収集、分析を行っています。保育所保育指針の改定にあたっては、園長が情報を収集し、新しい指針に沿った保育課程の原案を作成しました。これを基に乳児会議や幼児会議で職員が検討をし、さらにクラス会議で再考を加え、職員全体で試行版を完成させました。運営面で重要な課題が発生した際には、園全体として取り組む体制にあります。

事業の方向性や次代の組織運営については、法人の理事会および幹部職員、姉妹園園長との合議により決定される体制となっています。

後継者の育成は現職員を外部の施設長研修や主任保育士研修に積極的に参加させ計画的に行われています。

運営については、法人本部による内部監査の実施に加え、外部の監査法人による会計監査も行われ専門家の意見を取り入れる体制となっています。

現在、事業の中長期的な計画は作成されていません。園内において認識されている課題を中心として、課題克服を盛り込んだ園独自の中長期計画を作成し、年に一つずつでも職員でプロジェクトチームを編成し、計画的に取り組まれることを期待します。

利用者家族アンケート

結果の特徴

配布日 平成21年10月6日
 提出〆切 平成21年10月20日
 配付方法 園を通して保護者へ手渡し配布
 回収方法 評価機関宛に保護者より直接郵送
 送付数 81
 回収数 67

保護者アンケートの回収率は82.7%でした。保育園に対する総合的な評価では「満足」が32人(47.8%)、「どちらかという満足」が33人(49.3%)で、合計すると65人(97.1%)でした。

自由意見には、「こちらの保育園には大変満足しています。先生方もとても親切です」「日中、母親が仕事をしている間に子供たちの育児にありがたく思っています」「広くスペースをとっているし、大変満足です。他園とも比べてみましたが、どこよりも良かったです。安心して子供をあずけることができます」など、園に信頼を寄せる声が見られます。

質問別に見ると「園のおもちゃやきょうざいについて」では、97.0%の保護者が「満足」か「どちらかといえば満足」に回答しています。また、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応について」や「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」では、ともに95.5%の保護者が回答しています。これらの点については、特に満足度が高いようすがうかがえます。

一方で、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」や「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報について」では、それぞれ20.9%と22.4%の保護者が「どちらかといえば不満」か「不満」に回答しており、ほかの質問に比べてやや目立ちます。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	14.9%	58.2%	11.9%	11.9%	3.0%	0.0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	59.2%	34.7%	4.1%	0.0%	0.0%	2.0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	49.3%	34.3%	0.0%	0.0%	14.9%	1.5%
	その他: 見学はしていません/覚えていません など					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46.3%	46.3%	1.5%	0.0%	4.5%	1.5%
	その他: 開放保育もやっていたので良い/入園と見学を同時にさせてもらいました など					
園の目標や方針についての説明には	34.3%	52.2%	3.0%	0.0%	6.0%	4.5%
	その他: 特になかったような気がします/わかりません など					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	53.7%	40.3%	3.0%	0.0%	1.5%	1.5%
	その他: 面接を受けていません など					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	40.3%	50.7%	4.5%	0.0%	3.0%	1.5%
	その他: その日のことが黒板に書いてあるし先生も教えてくれます など					
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)	37.3%	52.2%	7.5%	1.5%	1.5%	0.0%
	その他: 一度、問い合わせをしたことがあるが事務の対応は、市に確認して下さいということでした など					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	46.3%	44.8%	4.5%	3.0%	0.0%	1.5%
	その他: 神奈川県での事情を説明されました など					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	26.9%	50.7%	9.0%	6.0%	7.5%	0.0%
	その他: まだ参加していないのでわからない/アンケートなどで決めていただきたいと思うこともあります など					

問4 日常の保育内容について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
遊びについて						
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	56.7%	37.3%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 運動量が足りないようです/何をして遊んでいるかわかりづらい など					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	55.2%	22.4%	16.4%	3.0%	3.0%	0.0%
	その他: 担当する先生によって違います など					
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	59.7%	37.3%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%
	その他: 園ならではの遊びをさらに増やしてほしい など					

自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	49.3%	38.8%	6.0%	4.5%	1.5%	0.0%
	その他:公園に行く頻度を増やしてほしい/園外活動は満足だが、もう少し自然にふれてほしい など					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	53.7%	38.8%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:コメント無し					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	47.8%	44.8%	3.0%	3.0%	1.5%	0.0%
	その他:足裏の発達を考えると裸足保育は悪いことではないと思う など					

生活について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	58.2%	29.9%	3.0%	3.0%	1.5%	4.5%
	その他:参考になります/カロリーが高いおかずやおやつが気になります など					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	55.2%	32.8%	6.0%	3.0%	0.0%	3.0%
	その他:コメント無し					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	64.2%	28.4%	3.0%	1.5%	0.0%	3.0%
	その他:コメント無し					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	46.3%	38.8%	6.0%	1.5%	3.0%	4.5%
	その他:状況についてはわかりません/昼寝が長いのでは? など					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	53.7%	32.8%	4.5%	0.0%	6.0%	3.0%
	その他:おむつはずし終わってからの入園でした/まだトイレトレーニングの時期ではないので など					
お子さんの体調への気配りについては	47.8%	43.3%	4.5%	1.5%	0.0%	3.0%
	その他:コメント無し					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	46.3%	29.9%	13.4%	6.0%	1.5%	3.0%
	その他:ケガをさせた方の親にも知らせて欲しい/十分なくらいしていただいています など					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	38.8%	44.8%	7.5%	3.0%	3.0%	3.0%
	その他:園庭があればもっと良い/床暖房がある分、冬は乾燥しているので、加湿器や空気清浄器があったらと思う など					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	49.3%	41.8%	6.0%	0.0%	0.0%	3.0%
	その他:コメント無し					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	28.4%	44.8%	13.4%	7.5%	3.0%	3.0%
	その他:夜間の不審者対策をより強化してほしい など					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	46.3%	41.8%	4.5%	1.5%	3.0%	3.0%
	その他:もう少し迅速に情報提供があると良い など					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	35.8%	46.3%	9.0%	1.5%	7.5%	0.0%
	その他: 写真やビデオなどわかりやすい/個人面談をしてほしい など					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	53.7%	35.8%	7.5%	1.5%	1.5%	0.0%
	その他: クラスごとに毎月出してほしい など					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	50.7%	43.3%	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他: コメント無し					
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	37.3%	38.8%	17.9%	4.5%	1.5%	0.0%
	その他: 先生によって違います など					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	40.3%	44.8%	10.4%	0.0%	4.5%	0.0%
	その他: 事由が発生していないため、不明 など					
保護者からの相談事への対応には	44.8%	47.8%	4.5%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 状況によります など					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	56.7%	38.8%	0.0%	3.0%	1.5%	0.0%
	その他: まだそのような状況になっていません など					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	53.7%	38.8%	4.5%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 担当の先生によります など					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	50.7%	44.8%	1.5%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 保育見学があると良いのですが など					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	49.3%	31.3%	3.0%	0.0%	16.4%	0.0%
	その他: わかりません など					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	52.2%	34.3%	6.0%	1.5%	6.0%	0.0%
	その他: 先生によって違います など					
意見や要望への対応については	40.3%	40.3%	9.0%	3.0%	7.5%	0.0%
	その他: 専門家としての対応を望みます/あまりお伝えしないのでわかりません など					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	47.8%	49.3%	3.0%	0.0%	0.0%

利用者本人調査

結果の特徴

【0歳児】

お天気のよい日に母体企業の経営するホテルまでコイを見に散歩に出かけました。ベビーカーを2台使用して、1台は立ち乗りでもう1台は4人で座るタイプでした。それぞれの成長や体格、性格を考慮してグループ分けしていました。散歩中、子どもたちに「きれいなお花だね。ワンちゃん、ネコちゃんだよ。ヘリコプターだよ」と指さしながら声をかけ、草花や動物、乗り物を教えていました。子どもたちはそれを見たり、音を聞いたり、触ったりして声を出して喜んでいました。ホテルでは、近くで音を立てると踊り出すサンタが飾ってありました。歌いながら踊るサンタを目を丸くしてみている子どもたちが印象的でした。道中眠くてぐずる子どもには、声をかけたり、抱っこしたりしていました。ベビーカーの振動が心地よく2、3人の子どもが気持ちよさそうに居眠りしていました。一人ひとりの様子を把握して保育していました。

【1歳児】

散歩から帰ったあと、手洗いやトイレ、着替えに移りますが、それぞれの子どものやりたい気持ちを大切に、保育士が見守ったり、手を貸したりしていました。その後昼食になります。みんなが席につくまで、絵本を自分で持ってきて座っている子どもがいました。何人かが席に着くと保育士がピアノを弾いて歌をうたったり、手遊びをするのを一緒にやる子どももいました。一斉活動ではなく、それぞれの意思で自由に食事の支度ができるまでの時間を過ごしていました。食事の挨拶は歌をうたって「いただきます」。みんな席に座って、フォークやスプーンを使用して食べていました。上手に口に運べない子どもや道具をうまく使用できない様子を最初は見守り、タイミングをとらえて「もうちょっとだね。上手、上手」などやさしい声をかけて援助していました。自主性を育てる保育をしていました。

【2歳児】

午前中は靴を履き替え帽子をかぶって、全員で園庭テラスでの外遊びです。元気いっぱい走り回っておいかけっこをしたり、木台に登って飛び降りたり、階段を上って上階からの長い滑り台を降りてきたり、三輪車をこいで友だちと走り回ったりしています。屋上・テラス園庭の構造をうまく活用して、それぞれが好きな遊びで思う存分声を出し、体を動かしています。保育士はそれぞれの遊びの集団に付き添い、一緒に遊んだり手助けをしながら安全を見守っています。集団から離れて一人にいる子どもには「〇〇ちゃんも一緒にやろうよ」と声をかけ寂しくならないようにし、順番を守らない子にはしっかりと注意をします。転んだ子が泣き始めると「だれか助けてあげて！」と友だちへの思いやりの気持ちを誘導する声かけも行われています。けんかの場面では危険が感じられる時にはすぐに駆け寄って間に入り仲裁をしています。

【3歳児】

3歳児室と遊戯室の仕切りを開けて2つの部屋をつなげ、広々とした室内での体操遊びです。巧技台やマットが用意され、まずは保育士が良い見本と危ない見本を実演しながら、ルールを言葉でもていねいに説明していきます。子どもたちはしゃがんで保育士の説明を静かに聞いています。「では、できそうなお友だちは？」と保育士が尋ねると「ハーイ！」と手が挙がります。「見て！〇〇ちゃん、ちゃんと手と足を使っているね」とさらに注意点の確認をします。子どもたちはゆっくりと慎重にはしごや平均棒の上を渡り、並べられたマットの上をジャンプしていきます。何度か経験するうちに、自分で渡り方を変えて難易度を上げてみたり、早足で渡ってみたり、子どもたちは思い思いのやり方で楽しそうに遊びを変化させていきます。途中順番を守らない子どもがいてけんかになりそうな場面がありました。「ダメだよ、〇〇ちゃんが先だよ」とほかの子どもが注意をし、飛ばされた子をかばう姿がみられました。保育士は、やりたくない子どもには急かせたり無理にやらせることはせず、全体に目を配っています。

【4歳児】

みんなでシール遊びをした後、自由遊びになりました。保育士は子どもたちに「何をして遊びたい？」と尋ねます。子どもたちは「ブロック」「お人形のおうち」など、自分のしたいものをそれぞれに伝えます。マットのコーナーにおもちゃを出し、思い思いに遊びます。なかに一人「粘土をしたい」と言う子どもがいて、保育士はテーブルの上に粘土板と粘土を準備しました。一人ひとりが自分で遊びを選択して楽しんでいる様子がよくわかりました。

給食は保育室で4～5人のグループになり食べます。お当番の子どもが3人いて、保育士の配膳の手伝いをします。配膳が終わると、お当番の合図で一斉に「いただきます」をして食べ始めます。子どもたちは家族の話をしながら楽しく食べていました。おかわりを自分で自由にすることができました。

【5歳児】

5歳児クラスで飼っている2匹のカメの冬眠準備をしていました。オスにみかちゃん、メスは亀吉という名前をつけて飼っています。オスとメスで名前が逆ですが、子どもたちが付けた名前だからと保育士は尊重しています。保育士が落ち葉をたくさん用意し、子どもたちが洗った水槽に「落ち葉のお布団を作ってあげて」と入れ方を説明します。子どもたちは興味津々でのぞき込みます。落ち葉を入れ終わると、「みかちゃんと亀吉を戻してあげて。自分でお布団に入っていきから見てごらん」と保育士が子どもたちに伝えます。「みんなが卒園するまで寝てるんだよ、さみしい？」と保育士が尋ねると、「時々、おこしてもいい？」と子どもが尋ねます。「ほんとは、あんまりよくないけど、さみしくなったら、時々ならいいよ」と保育士は優しく答えていました。日頃から、保育士と子どもたちが、カメを大切に飼育している様子がうかがえました。

公表の結果をふりかえって

各項目に渡って、丁寧な評価をいただきありがとうございました。総合評価による特性や今後の課題等十分に考慮し、持続性のある取り組みに職員一同、心を一つにして前進してまいりたいと確認いたしました。本来の保育及び保育サービスの有り方を追求していくことが、子どもの幸せにつながることに、思いを深くしております。365日開園を実施し、休日保育・一時預かり保育・特定保育・延長保育・開放保育・夜間保育と8シフトの中で保育士が動いており、第三者評価の受審にあたっては研修・会議を重ねることに非常に大変さがございました。パート保育士の協力を得て、よりよい保育、利用者様、地域サービスに心注し、保育理念を基本に、方針・目標を更に明確にし、具体的に実行・対応する。

マニュアルの見直し、食育、援助活動、支援活動を充実し、保育所像が積極性、協働性をもって浮かび上がる様に、保育士一人一人が努力していくこと。今まで見えにくかった保育への気づきや、心の育ち、意欲や理解を個人的に、充分配慮し保育の計画の改善を見つけ、組織的に取り組み、共通認識をもち、養護と教育の充実を計り、質の向上に努め、スペシャリストとしてステップアップいたします。

未来に生きる子ども達の夢を共に育て・育ち・生き生きとした笑顔が園一杯広がることを、又、安全・安心できる楽しい園として信頼され満足して頂けるよう頑張りたいと思います。

尚、保護者や職員のアンケートも真摯に受けとめ対応して参りたいと思います。

最後に再び、第三者評価により、客観性や透明性を学ぶことが出来、全ての利用者へのサービスの有り方を再確認いたしました。ご対応に感謝し、結びとさせていただきます。

社会福祉法人 恵伸会
サン・キッズ湘南
園長 城所 ミサ子